



# 協会だより

Japan Tourism Facilities Association

No.86



## 5月

発行／公益社団法人国際観光施設協会

総務委員会

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋

2-8-5 多幸ビル九段2階

TEL03-3263-4844

FAX03-3263-4845

E-mail : kankou01@syd.odn.ne.jp

URL : <http://www.kankou-fa.jp>

2012年5月9日

## 公益性の活動へ向かう

公益社団法人 国際観光施設協会  
会長 中山庚一郎

2012年4月1日から当協会は、新しい公益社団法人に移行しました。

1953年に国際観光ホテル整備法の普及のために設立されましたが、昨年の8月に、移行申請をして、このたび私たちの事業活動の公益性が国に認められ公益社団法人となりました。これにより活動の過半に高い公益性が求められ、さらにその効果が社会に与えられ、広く知らされることが求められます。

これまで協会名の「国際観光」とは何かの様々な議論がありましたが、今後はこの公益性から、日本の観光立国に貢献すべく、国際的観光の力によって、魅力的な地域の創造をめざすと考えるべきでしょう。美しい日本の自然と、文化や地域とともに生きる人々の生活の風景を世界的なブランドにして、地域に富をもたらし、住む人々の誇りを育むような国づくりへの活動で、社会の理解を得るとともに、その公益性に対し、CSRとして企業や個人の支援をいただきながら、社会全体として取り組んでいく形になるべきです。新しい観光立国への動き、それは当然社会や企業の活性化を促すでしょう。

4月3日～5日に再び被災地東北へ行きました。宮城県田老のまちで流失した地区に残った「たろう観光ホテル」に上り、宮古市の観光協会の方々と、ホテルの所有者である松本さんの撮影した津波の映像を見ました。目の前にある田老湾の岬や海の景色の中に

ビデオでは、大津波が襲いかかりました。そして皆で、津波と生活をどのように考えるかを議論しました。目の前にはすでに仮設の魚市場が出来ています。皆は言います、「今までの様に暮らしたい、仕事をしたいのです。津波は50年100年の災害、普段の海は幸を与えてくれます。たとえ防潮堤は3mでも、すぐ高台へ逃げられればいい、その時仕事場の流れるのはやむを得ない。」地域には様々な意見があります、しかしその土地に生きるとは、ある危険を覚悟することだと涙の出るような声を聞きました。

その地区は例のX壁の左側の三角地帯で左に岬の山、右に川があります。里山、里海の風景を想像してください、船が着き漁を下ろす、あみを繕う人がいる、裏手に畑があり、川が流れ、木々が生い茂る、そのような海の生活の風景を再現しよう。あの山にすぐ逃げられるように、名物になるような広い階段を150m毎に造ろう。地域の皆が望めば、今それは出来るのです。

桜が咲くと、私は通勤のとき、電車の一番まえに乗ります、中目黒の川の桜の景色が大好きだからです。電車から眺めると、川の両側の桜が数百mの花の雲のようです。その花の雲の上を腕を広げて飛行する夢をみます。社会も事業も人生も夢が必要です、公益法人の事業は社会の夢を実現する活動だと思います。

## 平成24年度の通常総会と関連行事 お知らせ

平成24年度の通常総会および当日の関連行事の概要が決まりました。

4月1日の公益社団法人への移行登記後初めての通常総会です。今年度の会場は、当協会の総会会場にふさわしい場所として緑溢れる庭園の格調高い造形美で訪れた人々に深い感銘を与え、今日に至っている目白・椿山荘にて開催することといたしました。

日時：平成24年6月15日（金）14時～18時30分  
場所：椿山荘 〒112-8664 東京都文京区関口 2-10-8

### 【スケジュール（予定）】

- ・通常総会（7F-10階Fリーグ） 14時00分～15時20分
- ・セミナー（7F-10階Fリーグ） 15時30分～16時30分
- ・情報交歓会（プラザ4階ジビター） 17時～18時30分

インテリア部会 新情報発信グループセミナー報告  
 第7回研究会 そこが聞きたい！シリーズ第1回  
 「アジアの人々、その日本観光の実態は・・・」インバウンドの研究で第一人者の財団法人日本交通公社理事、大野正人様をお招きし3月1日開催しました。訪日観光客は戻っているのか？アジアからの訪日観光客は国別では韓国、中国、台湾、香港の順でアジアの上位3ヶ国で全体の10%を占め今も急速に拡大。話題の中国観光客の動向は？中国人の行きたい海外旅行先は単独の国単位では日本がトップ。観光ビザの発行対象を準富裕層（世帯収入8万元以上、日本の年収600万円相当）にまで緩和したこともあって更なる増が期待される一方、国内の客室供給の過剰がそのままアジア向けの低価格ツアーにつながり、日本観光のバリュー低下にならないかの心配の声も聞かれました。

### 合同会議報告

平成24年度第1回合同会議を4月18日開催しました。今年度の事業開始にあたり、中山会長より公益事業として認定された以下の3つの項目について認識をあらたにしそれぞれの委員会・部会で考えながら事業計画書を作成し活動し結果は事業報告書として提出して欲しいと述べられました。

#### 【公益目的事業1】

地域の自然や土地の力を生かし、スマート（賢い）な、小さなエネルギーのシステム「エコ・小」を提言、普及する事業（ex. ホテルショーでのエコ達人村の無料相談デスク、エコ技術の普及啓蒙）  
 公益認定の法的根拠：地球環境の保全又は自然環境の保護及び整備を目的としている事業。

#### 【公益目的事業2】

自然と共生する美しい景観や生活文化の保全と継承のため地域の自然や温泉、文化の特性を調査評価し、それぞれの土地の力を活かしたまちづくりの手法を提言する事業（ex. 温泉フォーラム、観光交流空間のまちづくり研究会、三陸八海湾広域環状観光圏構想）  
 公益認定の法的根拠：文化及び芸術の振興を目的とする事業。国土の利用、整備又は保全を目的とする事業。地域社会の健全な発展を目的とする事業。

#### 【公益目的事業3】

一般及び訪日外客のために施設の利便性や安全安心のための調査研究の成果や地域観光交流空間の作り方や環境技術、課題となる情報等を社会全般に提供する事業（ex. 記憶に残したいインテリア空間について、その文化的価値と観光資産としての価値を調査し保存についての考察。観光施設及びそれを取り巻く環境についての見学会、講演会、セミナーの開催、季刊情報誌観光施設での情報提供）  
 公益認定の法的根拠：事故又は災害の防止を目的とする事業。地域社会の健全な発展を目的とする事業。

主たる活動計画としてそれぞれの担当部門長より以下の報告がありました。  
 □ホテル都市分科会：ハードの部分に会員企業が持

つ優れたエコ技術や思想を整備し役立たせるための普及・啓蒙活動の推進

□旅館観光地分科会：温泉フォーラムの開催検討（白骨温泉、鳴子温泉）、観光交流空間のまちづくり研究会の開催（夏会：別所温泉、冬会：未定）

□インテリア分科会：記憶に残したいインテリア空間の調査研究の継続

□東日本大震災復興支援委員会：三陸八海湾広域環状観光圏構想の実現に向けて岩手県への働きかけ、再度の被災地訪問を通して地元の動きと連動したネットワークづくりを模索

□建築部会：絵地図師 高橋女史の講演会（6月）、東京ステーションビル見学会（今秋）、路地園芸サミット

□ホテルズ実行委員会：継続事業、第4回エコ達人村無料相談デスクの実施、などが報告されました。

### 新入会員紹介（入会順）

<b>【設計】 ゲンスラー・アンド・アソシエイツ</b> （日本における代表者）山本那智子（担当者）デザイナー 松下千恵 〒107-0062 東京都港区南青山2-11-6 TEL03-6863-5300 FAX03-6863-5301 業務内容：建築設計、インテリアデザイン
<b>【個人】 櫻井宏征</b> 横浜商科大学 商学部 貿易・観光学科 特任教授 〒230-8577 横浜市鶴見区東寺尾4-11-1 つるみキャンパス TEL045-571-3901 FAX045-571-4125
<b>【コンサル】 オラガHSC(株)</b> （代表者）代表取締役 牧野知弘（担当者）箕輪ラン 〒105-0004 東京都港区新橋5-7-12 丸石新橋ビル8F TEL03-6402-4131 FAX03-6402-4133 業務内容：化粧品に関する経営コンサルティング業務
<b>【設計】 ㈱テクノス</b> （代表者）代表取締役社長（担当者）営業開発部 取締役部長 佐藤和男 柳原敏幸 〒東京都足立区梅島1-29-11 TEL03-5681-1400 FAX03-5681-3903 業務内容：商業内装企画設計

### ♥編集後記♥（新公益法人への移行のまとめ）

2007年から新公益法人移行準備委員会事務局を担当させていただき、準備を進めてまいりました移行計画が3月に内閣府より正式に認定を受け、新年度より新公益法人としてスタートできましたことは誠に嬉しいかぎりです。

当初定款の改定作業から始めましたが、長年に渡り事業を支えてきたこれまでの定款を活かしつつまとめた原案に対し、係わっていただいた内閣府の方々からその都度のご意見をいただき、参考にさせていただきながらまとめる事ができました。書式に則った申請書の作成について原案をまとめてみましたが、現在行っている事業を認定法に示されている公益性に合致させるよう表現することが難しく少々難航したところもありましたが、中山会長や姫井事務局長に修正を加えていただき、無事申請することができました。

これまでもこの協会だよりを通じて準備の経緯をご報告してまいりましたが、この役割も無事終わることができましたので、これからは新公益法人としての活動を話題の中心にして編集してまいりたいと思います。皆様のご協力をお願いいたします。金光義和